

三条市第2次自殺対策計画 三条市生きるを支える計画(案)についての パブリックコメントの御意見と市の考え方

令和6年2月14日から3月5日まで実施しました「三条市第2次自殺対策計画 三条市生きるを支える計画(案)」についてのパブリックコメントについて17件(1人)の御意見をいただきましたので、市の考え方について公表します。

No.	意見の要旨	意見に対する市の考え方
1	<p>【第2章 1 死亡の状況】</p> <p>P3で「標準化死亡率比」の説明はあるが、P4以降に出てくる「自殺死亡率」とは違うことから、「自殺死亡率」の説明があった方がよい。</p>	<p>御意見を踏まえ、P4図2の下に、自殺死亡率の説明を追記します。</p>
2	<p>【第2章 1 死亡の状況】</p> <p>P4の5年間の三条市の自殺者数の平均について、H25～29の平均と比べてH30～R4の平均は少なくなって良かったということではなく、県や全国との対比も必要ではないか。</p>	<p>本市の自殺者数は単年ごとで見た場合、数値に変動があることから、過去複数年間の自殺者数の平均値を用いています。なお、表2の説明文として、自殺者数の推移を本文に追記します。</p> <p>国、県との対比については、自殺者数では比較できないため、図2の自殺死亡率を御参照ください。</p>
3	<p>【第2章 1 死亡の状況】</p> <p>P4以降何年間か平均したり、合計したりしている表や図が出ているが、対象期間がH25～H29、H30～R4だったり、H29～R3だったり、H29～R4だったり、バラバラなので、統一できるなら、統一した方がよいのではないか。</p>	<p>計画策定時において、表や図の基となる人口動態統計及び地域の自殺の基礎資料はR4年まで、また、「地域自殺実態プロファイル2022」ではH29年からR3年までの合計として示されており、それぞれ最新データを用いて分析していることから、統一はしていません。</p>
4	<p>【第2章 1 死亡の状況】</p> <p>P7の図7「自殺者数」と「自殺死亡率」がどうしてこういう数字になるのか、わからない。H29～R3までの5年</p>	<p>図7はいのち支える自殺対策推進センターが作成している「地域自殺実態プロファイル2022」のデータを使用しており、H29年</p>

	分の合計数ということか。	からR3年までの合計であることから、グラフタイトルに「合計」を追記します。
5	<p>【第2章 1 死亡の状況】</p> <p>P10・表3からすると失業、配置転換、過労、人間関係などが特徴のようなので、ハローワーク、労基署と具体的に連携しての対策が必要になるのではないのでしょうか。</p>	<p>就業者への自殺対策においてハローワーク、労働基準監督署との連携は重要と考えております。「自殺予防を考える情報交換会」において、関係機関とより具体的な取組について検討し、取り組んでいきます。</p>
6	<p>【第4章 2 計画の数値目標】</p> <p>P26 国はH27と比べてR8までに自殺死亡率を30%下げようとしているが、「誰も自殺に追い込まれることのない三条市」を決意するのであれば、「現状値より低下」ではなく、自殺者数、自殺死亡率とも「ゼロ」を目標とすべきではないか。あえて達成できるような低い目標設定をしている気がする。</p> <p>5年間で達成できなくとも、将来的にゼロを目指し、この5年では少なくともこのくらいの数値を目標とすべきではないか。</p>	<p>誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現のために、「自殺者ゼロ」を目標に対策を推進していくことは、第1次計画と変わりはありません。御意見を踏まえ、追記します。</p> <p>また、数値目標については、自殺総合対策大綱で自殺対策の目標として挙げられている「令和8年までに自殺死亡率を平成27年と比べて30%以上減少させる」を一つの目安とし、現状値から確実に自殺者数が減少するよう取り組んでいきます。なお国の目標を参考にした数値を追記します。</p>
7	<p>【第5章 1 基本施策】</p> <p>P29 以降評価指標に「目標値」について、どういった根拠をもとに目標値が定められたのか記載がないと目標値に合理性があるのかないか判断できない。R11年度にそれを達成していたとしても、どれだけの意味があるのか、判断できないのではないか。</p> <p>例えば、「こころ不調のサインを知っていた人の割合」</p>	<p>目標値は、事業の検討及び見直しや改善につなげるための指標として設定しているもので、第1次計画の目標値、目標値に対する増減率、新型コロナ禍の影響等を踏まえた上で算出しています。</p> <p>「自殺予防やこころの健康に関する講演会、講話等の参加者数」については、新型コロナ禍前は、事業所で数百人に講話を行う機会がありましたが、新型コロナ禍以降は、同規模の実施が難しく、</p>

<p>「こころの健康に関する窓口を知っていた人の割合」は単純に10%アップを目標値にしており、「悩みやストレスを感じた…の割合」は逆に10%減にしてあるが、「10%」という数字にどれだけの意味があるのか。</p> <p>「自殺予防やこころの健康に関する講演会、講話等の参加者数」の目標値が1,600人以上となっているが、H29～R10年度の12年間の累計とすると、1年で133人以上にすぎない。三条市の人口が10万人弱であることからして、この目標は適当なのか。</p> <p>現状値が1,072人で、H29～R4年度の6年間累計であり、1年でいうと178人ですが、目標値がかえって少なくなっているのはおかしくないか。</p>	<p>そういった実情を踏まえ目標を設定したものです。</p> <p>本計画では、会場に出向く以外の様々な参加方法についても検討を進めることとしており、事業所の従業員への啓発にも力を入れて実施することを踏まえて、指標を再検討し年間180人以上の参加者を目指し、2,150人以上に修正いたします。</p>
<p>8 【第5章 1 基本施策】</p> <p>P32 スーパーバイズ事業について、医師に即時に相談できる体制にすべきと考えます。</p> <p>今、自殺を考えているという人への対応にあたっては、医師に即時に相談できないと意味がないからです。</p>	<p>緊急性が高い自殺ハイリスクの方については、個別の支援の中で安全を確保できるよう医療機関を始め関係機関と連携を図りながら迅速に支援を行う体制により、実施しています。</p> <p>一方、スーパーバイズ事業につきましては、ケース会議で方針を協議し支援を行っても、課題解決に至らないケースについて、適切な助言を専門家に依頼することで効果的な支援につなげることを目的としているため、緊急性が高いケースに限らないものです。</p>

9	<p>【第5章 1 基本施策】</p> <p>P33～34「生きるを支える連絡会」「自殺予防を考える情報交換会」「相談対応関係課連絡会」について、「有機的な連携支援ができるよう自殺予防に向けたネットワークの強化」が図られるかどうか、実態を備える必要がある。</p> <p>「生きるを支える連絡会」「自殺予防を考える情報交換会」の目標値が「1回以上/年」「各重点施策で1回以上」ではネットワークの強化はできないはず。年1～2回では無理であり、3回以上(少なくとも4カ月に1回程度)の開催が必要になるのではないか。</p> <p>そのくらいの頻度でなければ、協議した内容が実践されているかどうかチェックし、課題の整理や解決ができない。</p> <p>本気になって取り組むのであれば、関係機関を集め、プロジェクトチームを作るなど、恒常的な組織が必要ではないか。</p>	<p>「生きるを支える連絡会」は、自殺対策に関わる関係機関・団体と計画における対策の取組の進捗の報告、共有の場と考えており、これまでと同様、年1回以上の開催を目標としました。</p> <p>また、「自殺予防を考える情報交換会」については、これまで自殺対策検討会及び自殺対策庁内検討会の2つの会議体で実施していた会を、4つの重点施策の対象(子ども・若者、就業者、高齢者、生活困窮者)それぞれについて庁内外の関係機関による情報交換を行い、より具体的な取組を検討する場として新たに実施するものです。初めての試みとなるため、重点施策の各対象において毎年開催することを目標とし、状況に応じて回数を増やすことを考えております。評価指標については、その旨が伝わるよう記載を修正します。</p> <p>連絡会や情報交換会を開催するに当たっては、目的を明確にするとともに、各分野の課題や取組の共有、意見交換等を継続して実施することでネットワークの強化を図りたいと考えています。</p>
10	<p>【第5章 2 重点施策】</p> <p>P34～36 重点施策であるにもかかわらず、評価指数2つでは少なくないか。目標値も甘すぎる。</p> <p>不登校児・生徒の減少、児童・生徒からの相談件数の増加、スクールカウンセラーへの相談数の増加など、評価指数を増やした方がいいのではないか。</p>	<p>基本施策は、全国共通に取り組むことが望ましいとされる施策を第1次計画の取組から整理したものです。また、重点施策は、本市の自殺の現状を踏まえ、地域で「優先的な課題(対象者)」に対する施策として国から提示されたものです。</p> <p>重点施策の評価指標は、各対象者への様々な取組により、対象者の死亡率を低下させることが重要な目標と考えており、関係課と協議の上、評価指標・目標値を決定したものです。</p>

		<p>指標としている「子ども・若者に関する相談件数」は、児童・生徒から教師やスクールカウンセラーへの不登校やいじめ等を含めた相談件数が含まれています。早めに相談できることが問題の深刻化を予防する上で重要であることから指標としています。</p> <p>不登校児・生徒の減少等は、三条市子ども・若者サポートシステム会議問題行動対応部会において実態を把握し、対応を協議する場があるため、自殺対策計画においては指標としていませんが、「自殺予防を考える情報交換会」や「生きるを支える連絡会」において実態を共有し、各取組の評価と改善につなげていきたいと考えています。</p>
11	<p>【第5章 2 重点施策】</p> <p>P36～37 事業場への啓発として、商工課と健康づくり課とで「健康経営についての啓発を実施」をしていくようだが、具体的にどのような啓発をするか。</p> <p>「主な取組み」の内容が抽象的であるほか、評価指数にも表れないと、各年度において、実際に取り組まれるかわからないし、本計画後に取り組んだかどうか評価できないのではないか。</p>	<p>健康経営について、広報誌やホームページ、SNS での啓発の他、事業場が参集する会議や研修会、事業所への訪問などの機会を捉えて啓発することを考えています。</p> <p>健康経営の啓発については、協会けんぽやいのちの電話後援会三条支部など、引き続き自殺予防対策関係機関・団体と協力、連携しながら進めていきます。</p>

12	<p>【第5章 2 重点施策】</p> <p>P37 の評価指数の「啓発を行った事業所数」について、現状値は、H30～R4年度の累計が64か所とすると、5年間での1年の平均は12.8か所となる。</p> <p>目標値は、H30～R10年度の累計で79か所、11年間で、1年の平均は7.2か所となり、1年あたりの啓発をする事業所の平均が少なくなるが、啓発をする事業所の数は飽和してきているという認識なのか。</p> <p>三条市の事業所数がどれくらいかわからないが、あまりに少なすぎはしないか。</p>	<p>市内事業所へ出向いて行う啓発は、これまで年平均2か所程度でした。新型コロナ禍においては事業所に出向いて従業員に啓発が実施できなかった年もあり、その代わりとして、複数事業所が参加している会議の場を利用し、啓発活動を実施しました。現状値には、そのような会議の場に参加した事業所数を含んでいます。</p> <p>今後の啓発は、事業所に出向き、従業員に直接働きかけることに力を入れて取り組むことから、現状値からの増加数が少なくなるものです。</p>
13	<p>【第5章 2 重点施策】</p> <p>P37～39の評価指数が少ない。目標値も、目標として低すぎる。評価指数を増やし、目標値も高く設定すべきではないか。</p>	<p>評価指標は、取組についての総合的な評価として設定しています。重点施策の評価指標は、各対象者への様々な取組により、対象者の死亡率を低下させることが重要な目標と考えており、関係課と協議の上、評価指標・目標値を決定したものです。</p>
14	<p>【第5章 2 重点施策】</p> <p>独居であろうと、同居家族がいようと、いかに高齢者を孤立させないかが重要と思われる。例えば、高齢者等見守り事業について、訪問する数を評価指数に入れることはできないのか。</p>	<p>評価指標は、取組についての総合的な評価として設定しています。重点施策の評価指標は、各対象者への様々な取組により、対象者の死亡率を低下させることが重要な目標と考えており、関係課と協議の上、評価指標・目標値を決定したものです。</p> <p>引き続き、外出・交流及び社会参画機会の拡大及び役割や生きがいの創出と併せて、市民向けのこころの健康づくりの啓発、相談窓口の周知、支援者へのゲートキーパー養成を実施することにより、支援が必要な高齢者に早期対応できるよう取組を進め、高</p>

		<p>齢者の孤立・孤独の予防を図っていきます。</p>
15	<p>【第5章 2 重点施策】</p> <p>P41 生活困窮に関して、評価指数が少ない。目標値も、目標として低すぎる。評価指数を増やし、目標値も高く設定すべきではないか。</p>	<p>重点施策の評価指標は、各対象者への様々な取組により、対象者の死亡率を低下させることが重要な目標と考えており、関係課と協議の上、評価指標・目標値を決定したものです。</p> <p>生活困窮者の自殺死亡率の統計データがないことから、経済・生活問題を理由とした自殺者数の割合を評価指標としました。</p>
16	<p>【全体】</p> <p>本計画はR6～R11までの計画であるところ、指標となる計画たりうるかどうか、大いに疑問です。主な取組みが書かれてはいるものの、抽象的であり、R11年度時点では、主な取組みについて、どうなっているのかわからないからです。</p> <p>「評価指数」として、数値化しにくいものもあることはわかりますが、R11年度時点でどのような状況になっているかを具体的に示し、そこから逆算して、各年度においてはどういう取組みをどこまで実施しておく必要があるかを明確になるようにすべきではないでしょうか。このままでは、本計画は計画たりうるとはいえないものになるのではないかと非常に危惧しています。</p>	<p>計画は現状を踏まえた上で施策の方向性を示すものです。自殺対策は即時的に効果が現れるのものではなく、中長期的視点で推進していく必要があります。そのため、本計画において一貫した方向性を示すものです。その上で、具体的な取組については、「自殺予防を考える情報交換会」や「生きるを支える連絡会」において内容を共有しつつ、その成果を随時評価し、反省等を踏まえ、適宜見直しを行います。</p>
17	<p>【その他】</p> <p>今回、何人から、どれだけのパブコメがあるかも、自殺対策に関する市民の関心を表す指標だと思う。</p> <p>次回、パブコメを募集したときには、パブコメの数も、</p>	<p>パブリックコメントを通しての御意見は、その数や人数だけでなく、いただいた御意見についても重要と考えております。</p> <p>パブリックコメント募集時に限らず、日頃からより市民が自殺</p>

意見を出す人の数も今回より多くなっている必要があるのではないか。	対策に関心が持てるような取組を推進してまいります。
----------------------------------	---------------------------